

世界に仏陀の光を

INDIA



FOR WORLD PEACE

海外編



インド大仏建立 定礎式

1985年 2 月23日

インド大仏定礎式が、職業訓練学校（トレーニング・スクール）の落成式と併せて挙行された。
当日、メイングストにビハール州知事キッドワイ氏を迎え、その他各国寺院僧侶等多数の来賓が参集され式典が営まれた。
午前八時三十分、釈迦堂に於いて杉崎管長猷下導師のもとに読経があげられ、次いで九時三十分大仏定礎式場前

▶ 教団の記録誌を奉納

▼ 記念の植樹（大仏敷地内にて）



にて来賓を迎え厳かに定礎の儀式が行われました。大仏台座内に、経本・大仏の図面・式典参加の宣教師署名書等が、管長猷下の手によって納められ、式典は無事終了された。会場を釈迦堂に移し、管長猷下及び森法誠先生の挨拶があり、午後からはバイキングのパーティーの後、現地の老人三百人に毛布が支給された。また参加した宣教師により記念植樹がなされた。

インド大仏 起工式

1984年 2 月12日

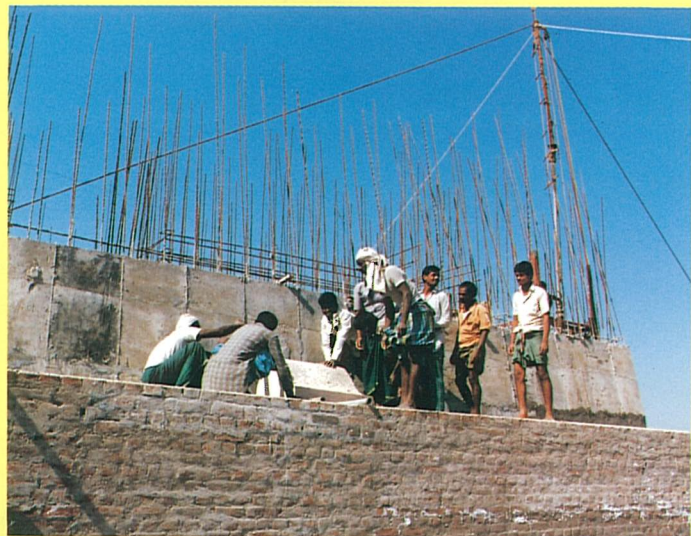


杭打ちをされる管長猷下

仏像が出現したのは、仏滅後五百年ほどしたガンダーラ地方（現在のパキスタン）である。仏教はシルクロードを経て、中国・韓国そして日本と伝来し、それにつれ大仏もそれぞれの国に建立された。日本では奈良の飛鳥大仏が最も早く造立され、次いで東大寺の奈良大仏、そして長谷の鎌倉大仏と建立された。だが仏教発祥の地インドには大仏は存在しない。大乘教は大仏をインドに建立し、世界に仏陀の光を照らすべく、この大事業を成すに至った。インド大仏はビハール州ブッダガヤ（釈尊成道の聖地）の大乗教釈迦堂に隣接する二エーカー（八〇九四㎡）の敷地に建立された。
建立には七年を費やした、インドでは極めて迅速な工事である。延べ十二万人による石工と人夫を動員したが、けが人が一人も無かった。これも仏陀のご加護によるものと思われる。
釈尊の聖地ブッダガヤを訪れる世界の巡拝者にとって、大仏が建立されたことは大きな喜びであった。ここを訪れる多くの僧や巡拝者達は、大仏前にて大理石の宝座で五体投地の礼拝をし

完成までの行程

てゆく。大仏建立は仏教徒にとつて、またブッダガヤにとつても、そしてインドにとつても真に意義は大きいであろう。
仏像や寺を造ることが総てではない。毎日の生活の中に釈尊の教えを守り、八正道をおこなわなくては、寺も仏像も意味をなさない。この大仏を拝すること、多くの人々が釈尊の教えへの帰依を、日々心に誓っていたいただきたいのであります。これが教祖杉山辰子先生の一天四海皆帰妙法の願いであります。





胎内仏お見送り式

一九八八年十一月二十日

秋季大祭終了後の午後より「インド大仏胎内仏お見送り式」が本仏殿に於いて営まれた。多数の御信徒が参加され、本堂内陣に安置された胎内仏を各教会代表者が奉持のために列席。宣教師一同の読経後、管長猥下からインド大仏工事のあらまし等のお話しがあり、このたびインドに送られる胎内仏についてのご説明がありました。本堂前にて胎内仏お見送りのため、宣教師・信徒が整列をした。婦人部御詠歌奉詠のもと、教会代表者から青年部員に胎内仏が手渡され、厳かに輸送のトラック・コンテナに納められ、名古屋港より船積みされ、十一月二十四日出港。十二月十九日にカルカッタに到着した。



胎内仏を奉持する教会代表者

白毫安置式

1989年 3 月 8 日



大仏基壇の右入り口より宣教師が入堂され、中央の螺旋階段を上り、地上四階の祭壇に一尊四菩薩のご本尊を奉祀し、読経が営まれた。その後基壇の外に出て、完成間近い大仏工事用の梯子（竹製）を登り、地上二十メートルの大仏頭部の足場に立たれた先生方は、寿量品一巻を読み上げられて、金色に輝く直径三十センチの「白毫」を杉崎管長猥下と柴垣副管長先生によって眉間に取り付けられた。

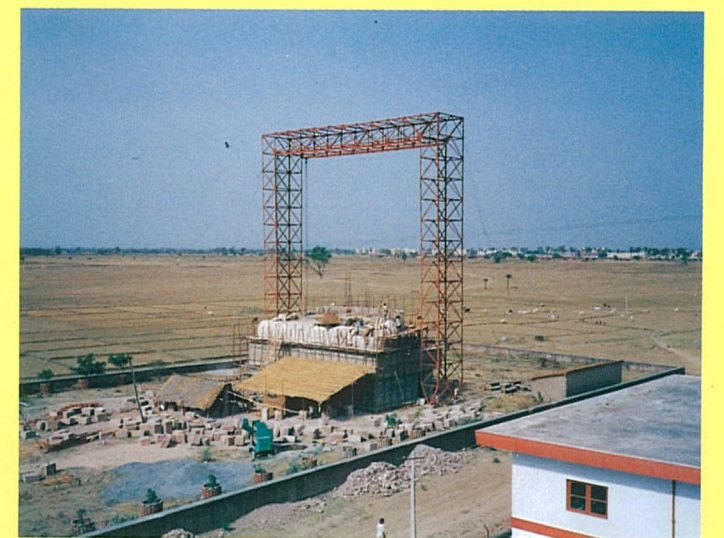
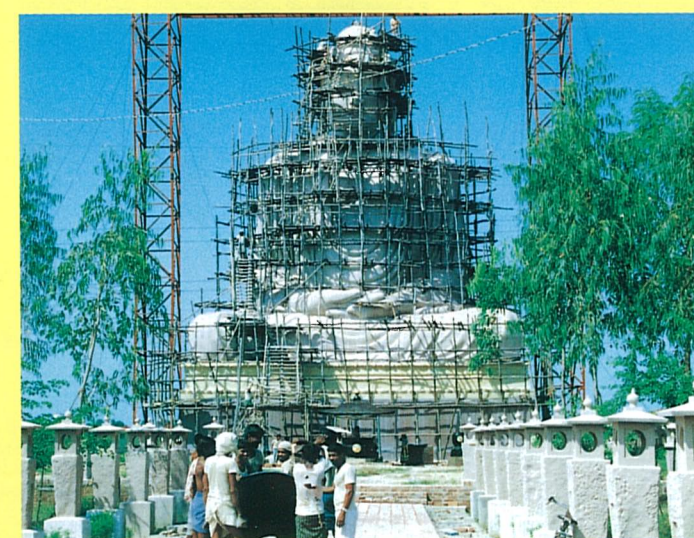
大香炉お見送り式

一九八六年三月二十六日

総本山に於いて、恒例の合同総会が催された当日の午後より、インド大仏前に安置される大香炉のお見送り式が本堂前境内にて営まれた。

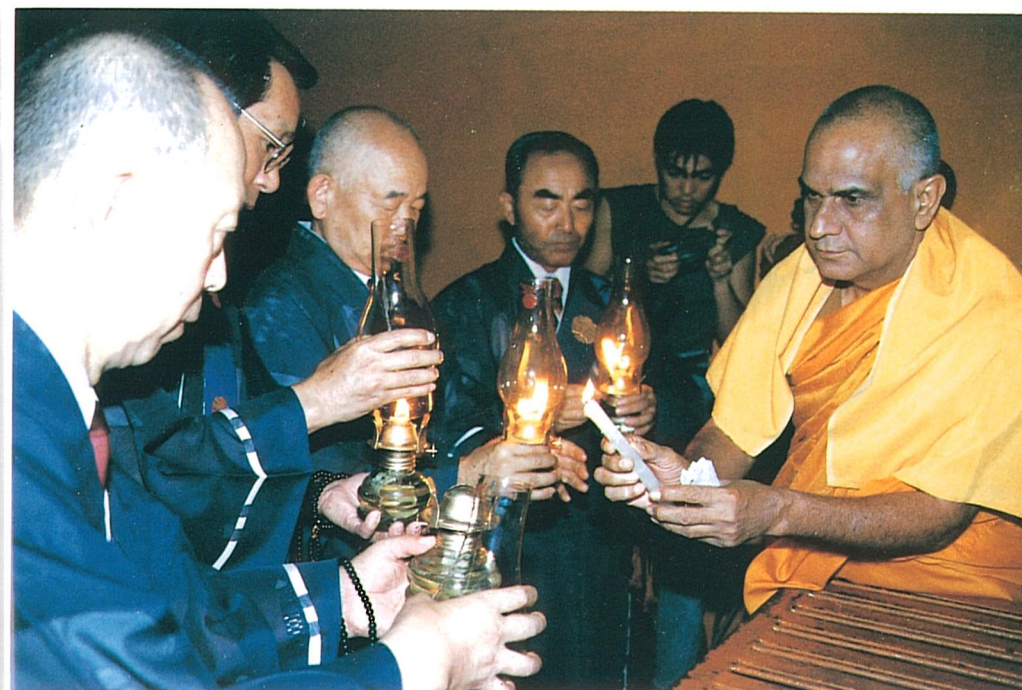


トラックに搬入された大香炉



大仏開眼法要

1989年11月



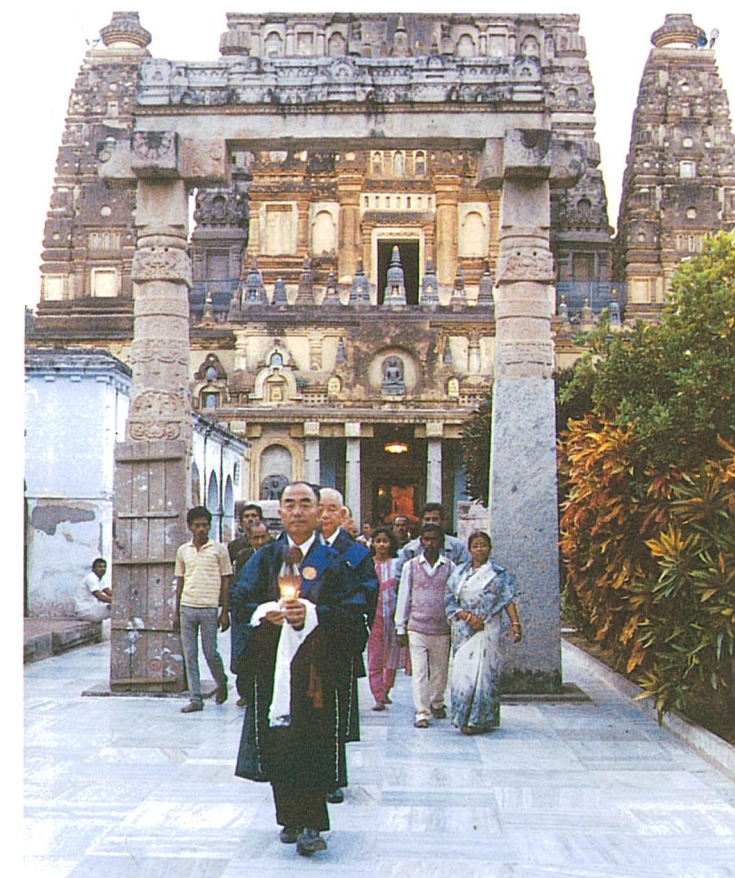
ジナンジャガット師(ブダガカ寺院運営委員)の介添えにより灯明に火が点火される

前夜祭

17日

開眼式の前に、インド大仏境内地に建てられた五十数基の石燈籠及び大乗教釈迦堂の石燈籠に明かりが灯される

大仏への入場門にてテープカットされる管長梶下



性入れ式

18日

チベット人から一般にイーシーノルウ(観音)と尊称されるダライ・ラマは、その言葉通り代々、観音菩薩の化身とされ、現在は第十四代目にあたる。かねてより大乗教は、ダライ・ラマ十四世をチベット宗教界の最高責任者としてのみならず世界の精神的指導者の一人としてインド大仏開眼法要に招請を願い、法要の第一日目の除幕を前に一時間半にわたって性入れ読経を厳

修していただいた。一九八九年度のノーベル平和賞を受賞されたが、その他にも平和勲章(モンゴル)、自由人権財団賞(スイス)、アメリカ議会人権賞など、その平和運動を認められて幾つもの賞を受けており、世界平和を記念して建立されたインド大仏に最も相応しい人物といえよう。



大仏の前にて五体投地の礼を行われるダライ・ラマ14世



チベットの大僧正ダライ・ラマ14世による大仏性入れの儀式が営まれた

大仏除幕

18日

インドの歴史上初めて大仏出現の瞬間である。日本を代表して我が教団は釈尊の聖地に大仏を建立することが出来た。
世界に仏陀の光を！
我々仏教徒の念願は世界平和である。

世界に戦争がなくなり、一切衆生が皆救われますように。除幕の瞬間、大仏眉間の白毫の光が、万八千の世界を照らし出した。



除幕の綱を引くー 左より五條順教金峯山寺管長、杉崎法涌大乘教管長、グライ・ラマ14世、チャンダナング大菩提会会長、ヴィブラサラ大菩提会事務総長



チベット僧による読経、導師はゲルク派のタラ・リンポチェ

外国僧による 開眼読経

20
日



ダライ・ラマ14世を導師とするチベット僧の開眼読経



スリランカ、タイ、ビルマ、バングラデシュ、ネパール
インドの僧侶による開眼読経。導師は、チャングナング
大菩提会会長・仏歯寺管長



杉崎法涌管長猊下による大筆が、ゆるやかに大仏の慈愛の眼に向けられた。と、その時、天空より散華が降り注がれ、それは桜の花吹雪に似てキラキラとおどる。世紀の大祝典を見守る三千人の群衆の耳に大音響がひびいた。黛敏郎氏作曲による法のしらべは荘厳を極め、感動の涙を誘う。

平安の奈良の大仏開眼にも勝るとも劣らない、此の大祝典は我々の生涯にいつまでも脳裏から消える事はないであろう。

開眼筆入れの儀 18日



▲杉崎法涌管長猊下が壇上へのほり入魂、筆の一端には五色の綱がのび、後方に並ぶ大乗教宣教師・役員(75名)が手をそえ、大仏のとしえならんことを祈る ▼





大塔奉告祭

18日

開眼法要第一日目の午後、釈尊が正覚を得られた大塔・金剛宝座のもとに大乗教宣教師・信徒が参拝し大仏の開眼を報告する



挨拶

管長

杉崎法涌

本日ここにブダガヤ大仏像の建立完成し、開眼大法要の盛儀を厳修することを得ましたことは、私共の最高の喜びであり、ひとえに御本尊並びに教祖大菩薩の御加護の賜ものと深く感謝するものであります。

本日はダライ・ラマ法王、チャンドナンダ・インド大菩提会会長、インド政府代表、及び比叡山山田恵諦天台座主代理・渡辺恵進門跡、修験本宗金峯山寺五條順教管長、ほか随伴の諸師の御参加を頂きましたことは、私共の栄光といたす所であり、厚く謝意を表するものであります。また教団の代表としてはるばる参列下さいました多数のご信徒の皆さま、まことに有難うございました。

想えば一九七三年インド政府より聖仏舍利を拝受して以来、大乗仏教西天開教の大因縁を感じ、八十三年当地に大乗教釈迦堂を建立し、一尊四菩薩の御本尊を奉祀いたしました。その間、釈迦牟尼仏仰慕の念いよいよ昂揚し、八十一年仏教流布のシンボルとして、世界平和を祈念する大仏像の建立を發願するに至ったのであります。

かえりみますれば、教祖杉山辰子先生は晩年とくに国家の安泰、アジアの平和を祈念され、一九三一年大

仏像の建立を發願されて、苦心奔走されたのであります。ついにその実現を見るに至らずして、翌年惜しくも逝去されたのであります。星霜移り、時代は変わりましたが、今ここに私共は教祖の御遺志を繼承して、世界の平和と、人類の幸福を祈念して大仏像の建立を実現させて頂いたのであります。

仏像の最も初期のものは、ガンダーラやマトゥラーに於いて見られますが、当初仏教徒は仏陀の象徴として法輪、菩提樹、仏足石などを礼拝していました。しかし在家信徒の間に仏塔礼拝が行なわれるようになり、さらに仏陀の救済を願う祈念の対象として、人間的容姿をもった仏像の出現を望むようになりました。折りからギリシャ、ローマの西方文化が流入し、東西文化の交流によりガンダーラ美術の發生となり、仏像の製作が行なわれるようになりました。

即ち大乗仏教の興隆とともに仏像も出現し、それはシルクロードを通じ、中国・韓国を経由して日本に伝わったのであります。仏像は大乗仏教のシンボルというべきものであります。

私共は發願以来、全信徒が熱意をこめ全力を結集して建立を推進して

まいりましたが、これが実施にあたつては、インド政府の御厚意を受けると共に、ブダガヤ在住の各国寺院の代表者及び大学関係者の各位による「大仏建設委員会」を設置して、ここに於いて仏像の位置、容姿、その他造像に関する協議をかさね、それに基づいて実行してまいりました。今後はこれを改めて「大仏運営委員会」として、その企画、運営に当たっていきなり所存であります。当地域の発展にいささかなりとも寄与することができずれば、何よりの幸甚と申す次第であります。

世界はいま平和への道を求めています。来るべき世紀は人類の共存共栄の実現に進むべき時代であります。大乗仏教は、人類の平和と繁栄の原動力となるものであることを信じて疑いません。仏陀の智慧と慈悲の教えは、地球上のあらゆる人々の幸福を増進するものであります。

「世界に仏陀の光を」私共はこのスローガンに精進し、今その偉大なる御姿を拝し、恭敬・尊重・讃歎して、帰依の感激に浸っております。

願わくは未来にむかつて無数・無辺の人々が、この大仏の恩恵に浴し、平和と幸福とを勝ち得られんことを心から祈つて止まぬ次第であります。



▲胎内仏の御祓をされる管長祝下



▶大仏内に安置された胎内仏

胎内仏御祓

17日



献菓の儀

大仏開眼式 天台宗 比叡山延暦寺

渡辺恵進大僧正を導師に天台宗の四箇法要が営まれる



▲慶讃採灯大護摩供がおこなわれる

▶五條順教金峯山寺管長によって願文が読み上げられる

大護摩供 修験本宗金峯山寺

19日

▶山中法臣副管長の手により故柴垣法隆副管長の胸像が
除幕される



胸像除幕

18日

故柴垣法隆副管長

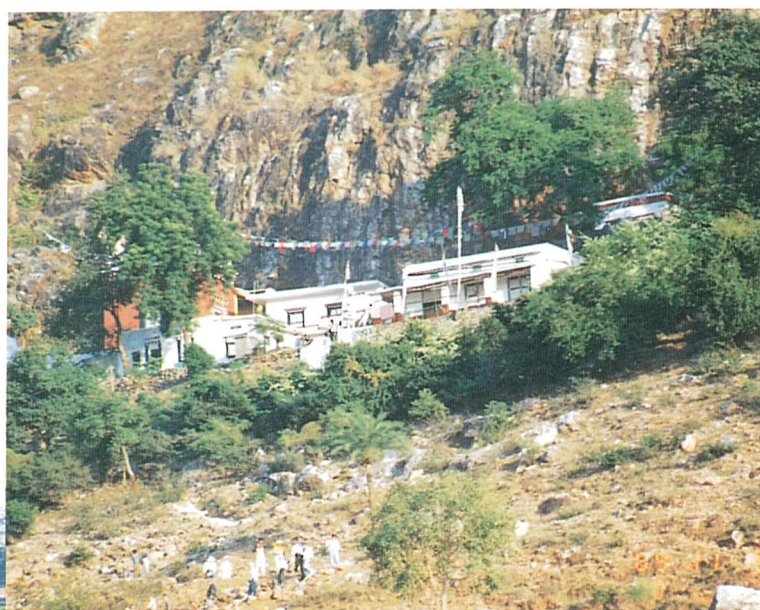
故杉崎法山管長



▼読経する宣教師

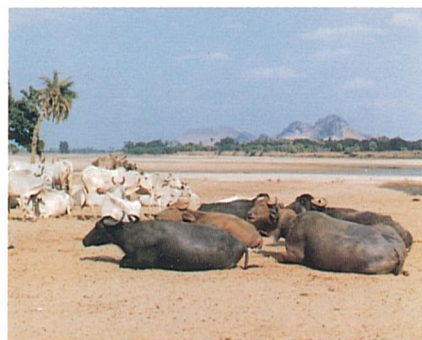
前正覚山参拝

尼蓮禪河の対岸に横たわる前正覚山
その中腹に釈尊が成道の前に6年間
修行された祠(ほくら)があり、現在
チベット僧(ゲールク派)によって
護られている。



◀ 前正覚山に参拝される御信徒

▶ 遙かに前正覚山を臨む
(尼蓮禪河畔)



記念植樹



大仏の裏庭で、すこやかな成長を願いつつ
記念の植樹が行われた



開眼奉告祭

於 大乘教総本山

1989年11月19日



インド・ブッダガヤにおいて大仏開眼法要が厳修されている頃、名古屋の大乗教総本山では、その成功を祈念して奉告祭が行われた



インド物産展

奉獻法の舞



憩の夜、舞踊劇が披露される

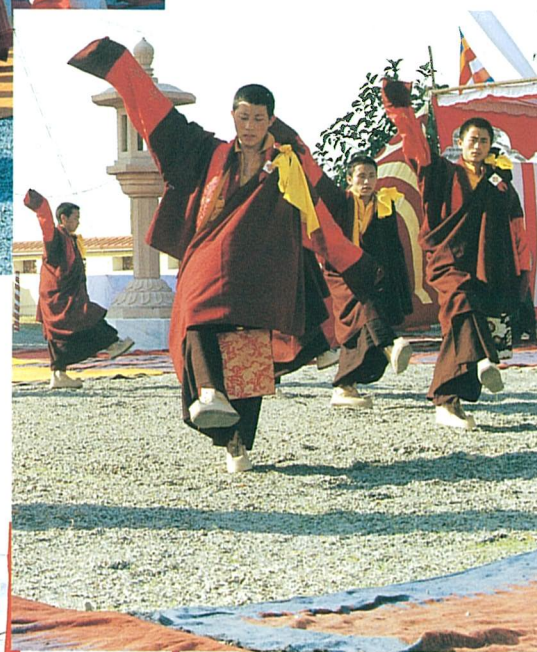


インド料理に舌鼓を打つ信徒



カルカッタのダンサーチームによる舞踊

大仏の前でドラムサラより招かれたチベット僧の“法の舞”が捧げられた



▲ 法の舞を観賞する訪印団員と群集 ▶



訪印団 旅行の思い出



カルカッタのジャイナ教寺院にて



カルカッタのビクトリアメモリアルの前にて



ニューデリーにて



デリーのマハトマ・ガンジー廟にて

十大弟子像造立趣意

ブッダガヤに建立された大仏像は、世界の仏教徒に大いに喜ばれ、深厚なる皈依と信仰の的となっています。私どもの励快これに過ぐるものはありません。このたび、さらに聖地を莊厳し大仏像の威儀を高揚すべく十大弟子の尊像を造立することと成りました。

仏陀を中心に多数の比丘・比丘尼が法によって結ばれ、一大僧伽が結成されて仏教が広く世に流布されました。僧伽は三帰依の一宝であります。經典にも「我衆僧俱出」と示されています。

舍利弗尊者 (智慧第一)
摩訶迦葉尊者 (頭陀第一)
須菩提尊者 (解空第一)
迦旃延尊者 (論議第一)
羅睺羅尊者 (密行第一)

目犍連尊者 (神通第一)
阿那律尊者 (天眼第一)
富楼那尊者 (說法第一)
優婆離尊者 (持律第一)
阿難陀尊者 (多聞第一)



在ブッダガヤの各国寺院僧によって構成される大仏運営委員会の席上、舍利弗尊者像のモデルを前に熱心な討議がかわされた



開眼法要より年が明けて1990年4月15日、インド大仏の御元で舍利弗尊者、目犍連尊者像の造立地鎮式が挙行された



漆黒の闇に浮かぶインド大仏

訪印団芳名

山杉山石河早杉中山鷺須近前加深岡森山川松安鷺羽古中高信杉福杉杉鷺小木瀬後森山杉
田浦下原村田江村田見木藤納藤田田 中田田田見田澤村橋田江井崎崎見林村上藤 中崎
法法
澄周康裕修永昌順広容念蓮恵潤善俊学義佑宏賢莊遠彰行定祥雄浄瑞泉秀寿胤紹興誠臣涌

吉鈴山根桜明船加野唐竹鈴杉小梅井杉安 間安多山廣鈴今横明伊横篠東松西植代筒北苧
井木田岸井谷木藤口原内木江島沢上江西 宮田田田 木枝田谷藤山田 田山手継井村谷
静 み信秀忠ひろセ真江英一つ正花美 栄 正正喜喜善きかず武七法法法法法法法
子豊子江則雄子忍子澄子明子野子子文 清学実吉利幸士郎あ雄郎收功久厳證崇拓

打市石石石浅浅杉鈴柴小青犬本鈴腰木石斉斉吉吉牧野西柴尾岩磯後三三藤竹後伊伊福林
保川原黒黒川川浦木垣島山塚多木山村原藤藤見見野村山田崎瀬貝藤浦浦田内藤沢沢岡
怜すすや量君敏隆完みつと文 は治ふ英勝文善ヤ一菊一鈴光三つ 昌久憲彦フ ト武条竜
子恵江子郎子雄三治あ美求子郎子一次子春ス三郎栄江子次る茂枝江一ヨ清子夫郎

守向水松増藤深廣早浜野浪仲内内竹竹高高鈴鈴鈴鈴杉神柴清桜桜桜酒酒近小河河神岡伊
川井野本田田谷田川島山崎島藤藤内内須木木木木木浦野田水井井井井井藤林合合谷田藤
志卯き義村志昭益静房す静ノ義ひ喜 い ち ノ 由 と 幸 久 康 さ ヤ ゆ 美 保 掬 忠 サ 達 三
あ作ぬ三次づ三彦子子あ江子明子栄な操子茂エ貢枝江一代治子学子き鈴明代重子男子

高酒酒佐鬼飯浅山山富水竹桑桑浅荒村杉小西西中鈴鈴杉佐小尾尾尾大宇宇宇安安柴山山
木井井野頭尾井中中田上内山山野木田浦原尾尾野木木浦藤林崎崎崎岩野野野藤藤垣下口
茂よ 昌美勝う三ノ真満和ふ清てる延ふめぐりあ健初美国ク久み辰利タ多英好 真和す
雄う実子子美子幸子紀子子あ信を子きみ子や子吉美代次ニ子江子男子明子勇弘郎光子

白白入石石浅桜桜平菱成田田沢桜苧春苧苧杉谷谷杉山蟹蟹小三早早信小小西渡渡橋橋高
井井野原原井木木松川瀬中中木井谷谷谷村口口浦口江江林輪川川田泉泉村辺辺口口木
し賢喜き秋ふ繁 おくみ孝逸ヤス汰香千春 う正利芳ケ き敏き正洋初鋼知よし久スシ保
子二市子光子潤わ子よ子夫子の江代子一章子雄子夫イ実よ子く信子美夫子江男子ナ子

小西津小杉河犬田飯横前磯宮吉上加松高古平平日岩安東東中多高栗磯丸井日高木
谷山村島崎野塚中田山納部田野島藤田田川佐佐野崎井 島田橋山田井上置橋村
隆君恵孝正泰忠智輝あさの義 フジ子子英美孝 文吾志津や恵み隆和耕 はみし由君憲志さ
一子史繁栄行善子子の義 エ子子あ雄栄幸宏子作 茂子子つ義子作 の子子子子一子あ

大仏訪印団 結団式

Cコース



Dコース



Aコース



Bコース

大仏一周年記念祭

1990年11月19日

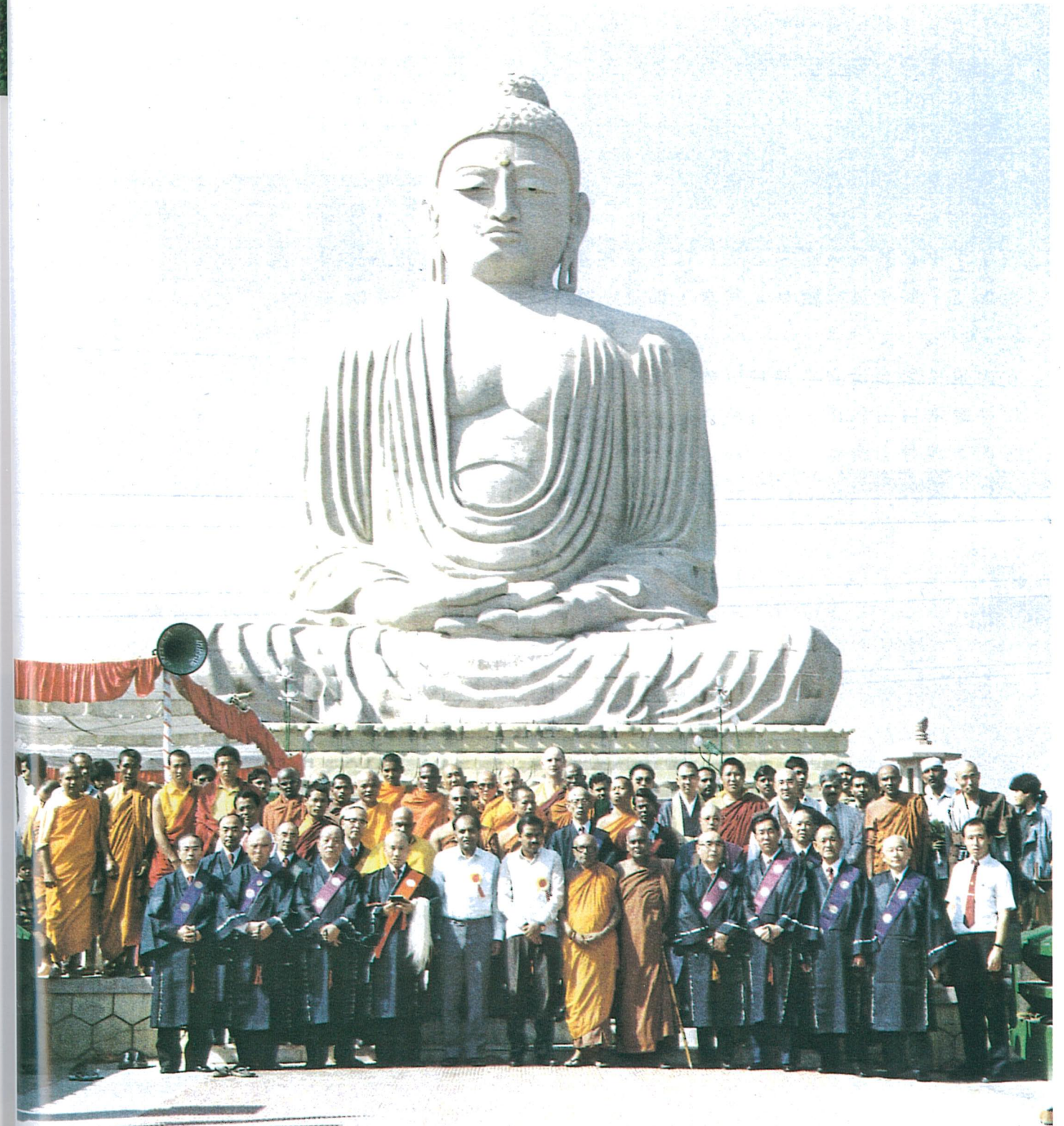


胎内仏を安置

セレモニーにて挨拶される森副管長



力車にて大塔に向かう



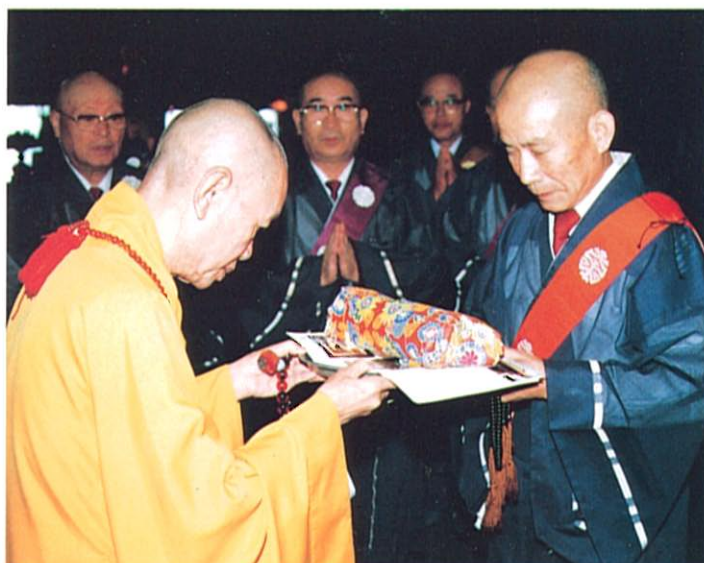
表敬訪問

ベトナム・永厳寺



ベトナムの永厳寺の境内にて

ベトナム・カンボジアを訪ねて
永厳寺を表敬訪問
印度ブダガヤに建立された大仏の一周年記念式典の為の渡印の途中、宣教師十四人一行はアンコール・ワットの見学及び、ベトナム・ホーチミン市（旧サイゴン市）最大の寺院、永厳寺へ表敬訪問を行う。ベトナム・カンボジアの入国は政情不穏の為困難であったが、近年やっと訪問が受け入れられることになった。我々はガイドの案内で永厳寺の本堂に入り、住職の釈清儉師に対面した。住職はただたない日本語で我々を迎えた。
住職の案内が終り一同は本堂で正装に改め、世界平和の祈願読経を行い、教団から敬意を以て印度大仏建立について説明し、当寺院への供養金を贈り日本とベトナムの仏教が手を取り合って、世界平和に貢献する事を誓いあった。



永厳寺住職に記念品を手渡される森副管長



世界最大級の仏教遺跡アンコール・ワット

青空に聳える美しい遺跡には戦果の跡も痛ましい弾痕が目につく 地雷が周辺に埋まっている不安の中一行は見学を終える